

仮説 2 授業づくり

教師 「この単元で育成したい資質・能力」

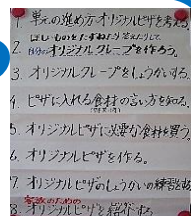
児童 「こんなことが話せるようになりたい」「こんなことを伝えたい」

視点1 単元のゴールを見据えた授業づくり

単元計画

お おさえる

教師と児童で「この単元で何を学ぶのか」「単元のゴール」を確認し、単元をデザインする。



ざ ざいりょうをそろえる

単元のゴールに向けて、必要な単語や表現に慣れ親しみながら、自分の思いや考えを明らかにする。

か かんがえる

児童が、習得した言語材料を使って、よりよいコミュニケーションのあり方を探りながら、自分の言いたいことや知りたいことを伝え合う。

まる まとめる

本単元で「何が身に付いたか」自らの学びを振り返る。プレゼンテーション等のまとめの活動をする。

過程	1 単元時間の学習活動	
おさえる	1 Greetings (あいさつ) 	○Greetings(あいさつ)や英語の歌で、笑顔で楽しくスタート♪ ○Small Talkで既習表現や会話を続けるための基本的な表現の定着を図る(高学年) ○Demonstrationで本時の学習内容を知る
ざいりょうをそろえる	2 Chants 	○「Chants」や「Activity1」で、本時の学習内容を繰り返し「聞く」「話す」活動を行い音声に十分慣れ親しませる
	3 Activity1 	What do you want? I want strawberries.
かんがえる	4 Activity2 	○コミュニケーションを意図した必然性のある活動 What do you want? How many? I see. I want apples. Pleaseを付けた方が丁寧だな。 Two apples, please.
まとめる	5 Look back 	○本時の学習の振り返り

視点2

必然性のある交流の場の設定

児童の発達段階や興味・関心に沿った、「児童自身が話したくなる」適切な場面・状況・目的を明らかにして、伝え合う場を設定する。

視点3 授業の振り返りの工夫

自分の学んだことや変容(できるようになったこと等)を自覚させ、互いの学びや気づきを交流し、次の活動につなげる。

児童が思考を働かせながら学習するための工夫

深い学び

主体的

自分の考えを広げたり、まとめたりしながら自分の生き方について考える。英語科における「見方・考え方」を働かせて、思考力・判断力・表現力等を高める。

対話的